

横浜の歴史を刻む税関庁舎、その塔は「クイーン」の愛称で親しまれる港ヨコハマのシンボルであり、その歴史的建物の保存・増築の設計者選定の公開プロポーザルコンペに参加、結果として特定され、設計に関わったものである。コンペは2人の建築家（香山壽夫・大野秀敏両氏）と都市デザイナー（中野）の3人の協同によって、従来の建物の1.5倍の規模の増築という条件の中で、歴史的建物の外観を保存する都市デザイン的アプローチの提案が高く評価された。

とりわけ都市デザインのアプローチとしては、横浜発祥の港・象の鼻や周囲からの景観への配慮、そして増築部の高さ、位置、残すべき外観等について、早い段階で条件付けなどを行ったことで、設計方針がより明確化できたことが、保存修復と増築の調整がスムーズに図れたと思われる。

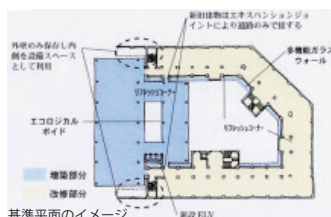
計画案はコの字の旧庁舎の西側を解体し、そこに新築棟を建設するとともに残りのコの字の旧建物の保存改修を実現した。実施設計段階は両建築家に委ねた形となったが、監理段階までJVとして関わった。



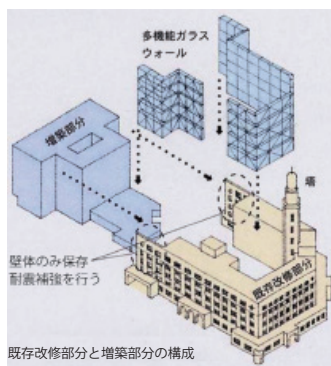
改修後の横浜税関本関庁舎



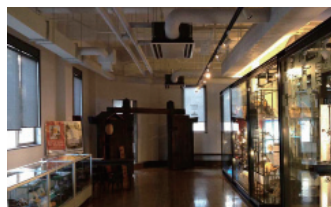
赤レンガ倉庫・象の鼻パークと税関庁舎の関係



基準平面のイメージ



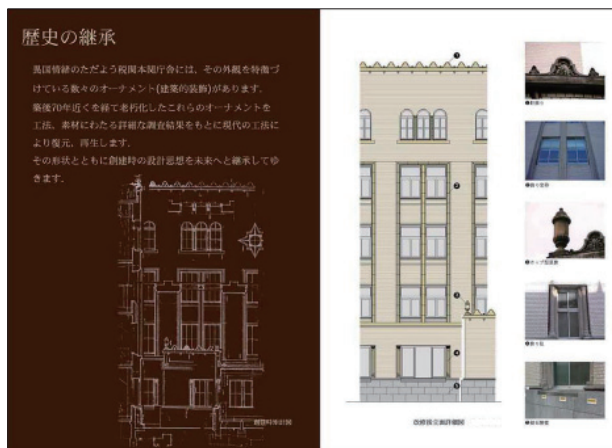
既存改修部分と増築部分の構成



税関展示室の内部空間



新旧の対比



歴史の継承

経緯 横浜税関本関庁舎設計・設計者選定プロポーザル'00.6／横浜税関本関設計'00.7～03.10／横浜税関本関工事監理'01.7～03.10
 諸元 発注：国土交通省関東地方整備局 所在地：横浜市中区海岸通 構造：[増築部]SRC造 [改修部]SRC造 階数：地上7階、塔屋5階 敷地面積：7,202.7㎡ 建築面積：4,024.16㎡ 延床面積：15,955.32㎡ 用途：税関事務庁舎 原設計：大蔵省営繕管財局（大熊喜邦）、原施工：戸田組 改修設計：香山壽夫建築研究所＋大野秀敏＋アプル総合計画事務所 構造：MUSA研究所 設備：森村設計 造園：エキープ・エス・エス 設計期間：'00.7～'01.2 施工期間：'01.3～'03.7
 担当：大野、中野、郷田、萩尾、粕谷、加藤、金子